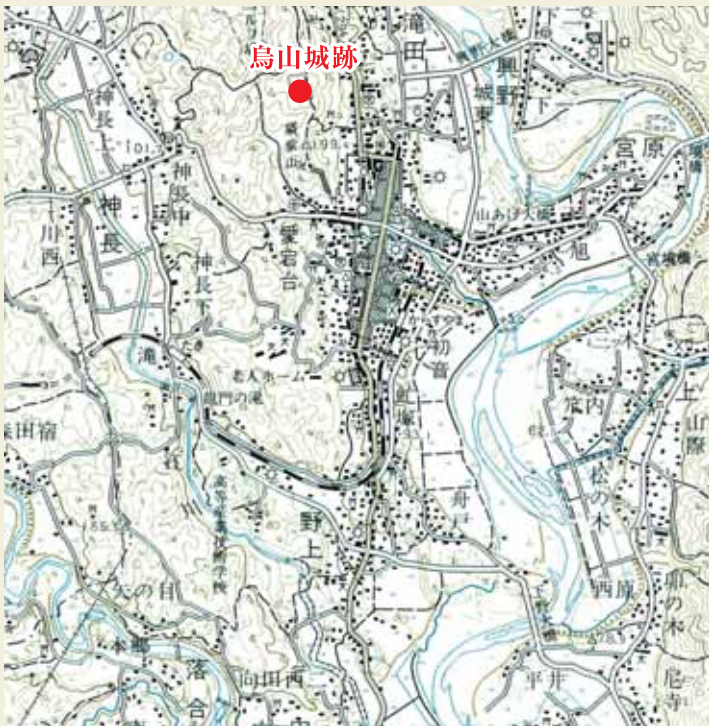




「国土地理院発行の5万分の1地形図(烏山)」

立地概要

烏山城の東側は大きく蛇行を繰り返し南流する那珂川、西側は江川、南側は那珂川と江川、荒川の3河川が合流する氾濫原、北側は大小の谷が複雑に入りくむ丘陵地帯と那珂川の蛇行によって形成された狭地となっています。この様に周辺の地形をも巧みに利用した要害の地を選んで築城したものと考えられます。

ACCESS



新幹線・電車

JR／東北本線(快速1時間30分▶宇都宮▶宝積寺から烏山線35分)
東北新幹線(40分▶宇都宮▶宝積寺から烏山線35分)

自動車

東北自動車道(宇都宮I.C▶さくら▶那須烏山50分)
北関東自動車道(上三川I.C▶高根沢▶那須烏山50分)
常盤自動車道(那珂I.C▶常陸大宮▶那須烏山50分)

この事業は、平成26年度市内埋蔵文化財史跡等総合活用支援推進(埋文)事業費補助を受け作成したものである。



烏山城跡

烏山城の沿革

応永24年(1417)*、那須氏一族の沢村五郎資重によって築城されたとされています。それ以後、天正18年(1590)に当主那須資晴が、小田原遅参を理由に豊臣秀吉によって改易されるまで、那須氏の居城となりました。

戦国末～江戸中期においては、織田氏、成田氏、松下氏、堀氏、板倉氏、那須氏、永井氏、稲垣氏と頻繁に城主の交代が行われ、万治2年(1659)、時の城主であった堀親昌によって、城の東山麓に新たな居館(三の丸)が築かれ、以後の藩政機能はこちらに移ることになりました。

享保10年(1725)になると、譜代大名の大久保常春が江州(現:滋賀県)より移封され、その後八代、約140年にわたって大久保氏が城主になり、城は明治を迎え廃城となりました。

※応永25年(1418)の説もあり、これは応永24年2月築城開始、翌25年正月に完成、入城という古記録の記載によるものです。
築城の由来に関しては、これらの説を含め諸説ありますが、考古学的にはまだ詳細不明であり、正確な築城時期は不明です。



編集・発行 (第2版)
栃木県那須烏山市教育委員会事務局文化振興課
栃木県那須烏山市大金240
TEL0287-88-6224